



ふれあいの集い

真鶴町青少年指導員協議会 会長 向笠 伸一

真鶴町の青少年指導員は現在10名で活動しており、毎月の定例会や各種事業も青少年指導員自らが楽しんで活動することを心掛けています。

当町は神奈川県内で2番目に小さい町で、小学校・中学校ともに1校です。小さい町だからこそ、子どもたち一人一人の顔を見ながら活動出来ることで必然と距離が近づいています。夏休み・冬休み期間中のパトロールや、日本3大船祭りである貴船祭りでの夜間パトロールの場面でも子どもたちから声をかけてくれるほど、普段から距離の近い中で活動しています。

1年間で一番力を入れている事業が12月に開催している「ふれあいの集い」です。ふれあいの集いとは、中学生と青少年指導員が主となり、焼きそばやフランクフルトなど6つの模擬店を企画・運営することを通じて地域とのふれあいの場とすることを目的に開催しています。中学生が動物の着ぐるみを着て、児童・幼児対象のじゃんけん大会を行い、会場を盛り上げてくれています。年々少子化の影響を受けて生徒数が減少してきている中で、中学生の勢いは年々増してきていることに頼もしさ

を感じています。チャリティー募金を目的にしている模擬店も出店していて、集まった募金額の半額を町の緑の再生事業等に使うみどり基金へ、もう半額を社会福祉協議会を通じて日本赤十字社等へ募金しています。今後も子どもたち一人一人との距離を大切に、笑顔を忘れずに活動していきます。



じゃんけん大会の様子

動 報 告



ピザ焼きに挑戦!

大磯町青少年指導員連絡協議会 会長 加藤 久昭

湘南の町、大磯は人口約3万2千人の海と山に囲まれた自然豊かな地域です。ここで私たち青少年指導員は10名という県内でもきっての少数精鋭で活動しています。

この恵まれた環境の中で、子どもたちに多くのことを体験してもらいたいと思い、毎年色々な事業に取り組んでいます。中でも最近、自主事業として恒例になりつつあるのが、ピザ窯作りです。主に小学生を対象として

行っているもので、段ボールでの窯作りから始めて手作りピザを焼く、という工作与野外活動が合わさった、子どもたちに人気のイベントです。

班ごとに分かれた子どもたちは、かまどでのマッチを使った火おこしから始め、組み上げた薪と新聞紙を使い炭に火をつけていきます。解体された段ボールには通気口を開け、耐熱処理を施し、段ボールを窯の形に閉じていきます。最後は、ピザ生地に各々好みのトッピングを乗せ、手作りの窯に入れて焼くこと20分でピザの完成です。

最初の頃は、「素材が段ボールでは燃えてしまったりしないだろうか？」という不安もありましたが、窯の内側にしっかりと張られたアルミホイルの耐熱性により、窯としての機能を全く問題なく発揮しています。

ピザを焼いている時間は、大縄跳びやハンカチ落とし、けん玉などで遊びながら、学年や学校も異なる子ども同士が交流を深めています。昨年も、参加した子どもたち全員が「来年もまた参加したい！」と笑顔の1日になりました。



かまどの火おこし



ピザの完成!